

こども教育会議 会議録(速記メモ)

日時	場所	出席	小松市長、松尾教育長、 大庭教育長職務代理者、教育委員(松尾、落合、竹内)、 古賀こども教育部長、野口こども教育部理事、教育総務課(真崎課長)、学校教育課(福田課長、富岡参事、山口係長)、新しい学校づくり課(石橋課長、浦郷係長)、生涯学習課(井手課長)、松尾企画部長、企画政策課(小柳課長、筒井係長、川内)、奥島地域おこし協力隊員、武雄アジア大学小長谷学長予定者
令和8年3月18日(水) 15:00~16:05	武雄市役所 4階 災害対策本部室		
1. 協議件名	第40回こども教育会議(大学を活かしたまちづくりについて)		

議事録

内容	<p>1 開会(進行:松尾企画部長)</p> <p>2 議事(議事進行:小松市長)</p> <p>私は人口減少社会において持続可能な地域をつくるうえで、大きな起爆剤になると考え、それだけでなく、子どもたちの学ぶ選択肢を増やし夢の実現を応援するようなまちにしたいと考え大学誘致を進めてきた。教育は夢への懸け橋だと思っている。子どもたちの身近に大学があることで、大学進学を考えるきっかけになるなど、夢の実現を応援することに繋がると考えてきた。</p> <p>本日は武雄アジア大学小長谷学長にお越しいただいた。大学を活かしたまちづくりについて皆さんのご意見を伺いたい。</p> <p>(1)武雄アジア大学について</p> <p>①話題提供 (武雄アジア大学小長谷学長予定者)</p> <p>武雄アジア大学や大学を活かしたまちづくりについて説明。 (企画政策課 小柳課長)</p> <p>3月に着任した奥島地域おこし協力隊員を紹介。</p> <p>②意見交換</p> <p><出席者の意見></p> <p>(松尾委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園、こども園、保育園では、運動会や発表会に向けて子どもたちが話し合い自分たちで準備を行う主体的な学びを進めている。そのため、未就学児の子どもたちが興味を持つテーマで講義をしていただくと良いと思う。 武雄市子育て支援センターでは「育ちあい講座」を実施しており、大学生も入っていただければ良いと思う。 <p>(小長谷学長予定者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 例えば、海外文化を体感できる講義など実施可能。他にも教授陣に未就学児にどんな講義が出来るか相談してみる。 <p>(竹内委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学校舎がオープンで明るい設計で良いと思う。ホワイトボードを使用した壁面など工夫されていた。10年ほど前に視察したシンガポールの学校に同じようなホワイトボード壁面があり、学生のグループディスカッションの跡が残されていた光景を覚えている。 大学生が話し合いながら問題を解決するような姿を、ディスカッションの跡などで感じる事ができれば、小中学生にとっても学びの楽しさの発見に繋がり、大学生への憧れが生まれると考える。大学が身近にあるからこそ、大学生の学びのプロセスを小中学生が体感できる機会を作り、地域全体の教育の充実に繋げてはどうか。
----	--

(小長谷学長予定者)

・大学内の掲示板などを学生の発表の場に活用することは考えていたが、成果を発表するだけでなく、その学習のプロセスを見せることが大事だと気付かされた。良い方法を考えていきたい。

(小松市長)

・大変興味深いテーマだと思う。学びで大事なものは自己決定であり、対話を重ねることでの合意形成が大事と考える。その過程を可視化するのはすごく勉強になると思った。できたばかりのとてもきれいな校舎だが、きれいなままではもったいなく、学生には大学を使い倒してほしいし、その息遣いが子供たちにも見えると良いと考える。

(落合委員)

・校舎がガラス張りで大学生が勉強している姿を見ることができる。これまで市内の子どもたちは、修学旅行など地域外に行くことでしか大学がどんなものか感じるができなかったが、武雄アジア大学前は通学路でもあるため、普段から勉強している姿を見ることができることはメリットだと考える。

・武雄市の子どもたちは図書館や市役所で自習をしているが、大学もそのような場所を提供いただければ良いと感じた。

(小松市長)

・高校生の学びの場として市役所や図書館をよく活用されている。中高生が夜大学内で勉強することは可能か。

(小長谷学長予定者)

・大学校舎の開放時間など現在検討中。高校生の学習もちろん、中学生なども本を読みに来るなどふらっと立ち寄っていただければ嬉しい。

(大庭教育長職務代理者)

・市と大学とで連携してこれから前に進めていただきたいと考える。

・自身の学生時代を振り返っても、地域でのアルバイトや住民との触れ合いこそ覚えているもの。地域で過ごした学生が武雄を好きになり、武雄に住みたい、働きたいと思ってもらえることを期待している。

・学生には地域の学校などに出向き交流していただきたい。武雄市では部活動の地域展開も進めているため連携できれば良いのではないかと考える。

(松尾教育長)

・大学の敷居が低くなったと感じた。地域に開かれた大学といった印象を持った。

・これまで小中学生との連携、未就学児との連携、公民館を通じた地域との連携など別々に考えていたが、あれだけ地域に開かれた大学であれば、大学が核になり、まとめて連携ができるのではないかと感じた。

・小中学校の総合的学習について、半年など期間を区切ることで連携しやすい学校もあるのではないかと考える。

(小長谷学長予定者)

・武雄アジア大学にとっても探求学習は、一番相性がいい授業と考えている。まずは連携に前向きな学校と協議しながら、連携させていただきたい。

(大庭教育長職務代理者)

・生涯学習の分野で、地域には様々な文化・スポーツ活動が盛んである。大学生が入って一緒に交流することも双方にとって良いと考える。

(小長谷学長予定者)

・開学したばかりの大学では、まだ部活動も何もない状態である。何かやりたい学生がいた際に、地域の方と一緒に何かさせていただくことはあるかと思っている。

(小松市長)

- ・学びというイメージするのは机上での学びや他者とのディスカッションなどがあるが、文化・スポーツなども学びの一つであると再認識した。
- ・本日の意見交換では、学びを狭く捉えず、広い視点で考えることが重要だということを発見できた。大学を活かしたまちづくりも広い視野で考えることが大切だと感じた。
- ・未就学児から小中高校生までの学びや、学びのプロセスの重要性、総合学習との連携や大学校舎の活用など、本日の意見から色んな発見があった。
- ・大学が様々な人が集まる多様性のシンボルになれば良いと考える。また、学びが楽しいものである原点を忘れずに、そのことが大学を起点に地域に広がっていけば良いのではないかと考える。

3 報告事項

(学校教育課 山口係長)

「武雄市立小中学校 業務管理・健康確保措置実施計画」について報告

4 閉会

(進行:松尾企画部長)